

日本遺産の 活用とその手法



日本遺産サミット セミナー資料
2019年10月12日(土)

丁野 朗

東洋大学大学院国際観光学部客員教授
日本遺産審査委員会委員
観光未来プランナー

日本遺産の活用とその手法

1. 「物語」としての日本遺産



2. 文化資源(日本遺産)を活かす取組の考え方



3. 文化資源活用の可能性をどう広げるか



1. 「物語」としての日本遺産



- 「日本遺産」は、多様な地域の文化資源(文化財)を生み出した歴史・文化的背景を「物語」として編集。
- 観光や地域ブランドは、「物語消費(経験消費)」。物語がなければ、他の地域との差別化や優位性は獲得できない。
- その物語(地域ブランド)にそって、新たな産業創造やテーマ型ツーリズムなど地域活性化を図ることが、日本遺産制度の狙いである

(1)日本遺産制度創設の背景

地域文化資源の抜本的活用が大きな鍵

明日の日本を支える観光ビジョン
(平成28年3月)

視点1

「観光資源の魅力を極め、
地方創生の礎に」

■「魅力ある公的施設」を、ひろく国民そして世界に開放

- ・赤坂や京都迎賓館などの大胆な公開・開放

■「文化財」を観光客目線で保存優先から「活用」へ

- ・2020年までに文化財を核とする観光拠点を全国200整備など。

■「国立公園」を世界水準の「ナショナルパーク」へ

- ・2020を目標に全国5箇所の公園について体験・活用型の空間へと集中改善

■おもてなし観光地で「景観計画」で美しい街並みを

- ・2020年を目標に、原則として全都道府県・全国の半数の市区町村で「景観計画」を策定

視点2

「観光産業を革新し、国際競争力を高め、わが国の基幹産業に」

■古い規制を見直し、生産性を大切にする観光産業へ

- ・古い規制・制度の抜本見直し、経営人材育成、民泊ルール整備、宿泊業の生産性向上などの推進・支援

■新しい市場を開拓し長期滞在と消費拡大を同時に実現

- ・欧州・米国・豪州や富裕層へのプロモーション、戦略的ビザ解禁等
- ・MICE誘致支援の抜本的改善
- ・首都圏におけるビジネスジェット受入環境改善

■疲弊した温泉街や地方都市を未来発想の経営で再生・活性化

- ・世界水準のDMOを100形成
- ・観光地再生・活性化ファンド、規制緩和など民間力の活用

視点3

「全ての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に」

■ソフトインフラを飛躍的に改善し世界一快適な滞在実現

- ・技術活用による出入国審査
- ・ストレスフリーな通信・交通利用環境
- ・キャッシュレス観光の実現

■「地方創生回廊」を完備し、全国どこでも快適旅行を実現

- ・「ジャパンレールパス」を訪日後でも購入可能化
- ・新幹線開業やコンセッション空港運営と連動した観光地アクセス交通の実現

■「働きかた」と「休みかた」を改革、躍動感溢れる社会実現

- ・2020年までに、年次有給休暇取得率を70%へ向上
- ・家族が休暇をとりやすい制度の導入、休暇取得の分散化による観光需要平準化

(2)改めて「日本遺産 (JapanHeritage) 」とは何か？

- 「日本遺産 (Japan Heritage)」とは、個々の文化財の枠を超えて、その背後にある地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーである (文化庁認定)
- ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、**国内だけでなく海外へも戦略的に発信**していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としている



●要するに!! 日本を象徴する「100の物語」

- 例えば「出雲國たたら風土記」(2016年認定)は、「たたら」という日本を代表する鉄の産地が千年にわたって継続してきた仕組みを解き明かす歴史・文化の物語
- 玉鋼がなければ、日本刀の歴史は終わる。その希少性・地域性をどのように表現・訴求するかが試されている。

「日本遺産 (JapanHeritage) 」の詳細は、文化庁HP参照
http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/

こんな物語もあります(「六根清浄と六感治癒の地」)(鳥取県三朝町)

～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～(2015年認定)



日本一
危ない
国宝鑑賞
三徳山

三佛寺
授入堂

六根清浄と六感治癒の地

「三徳山・三朝温泉の真実」

参加無料

1期
大阪会場 9月5日 14:00-18:00
東京会場 9月6日 14:00-18:00

2期
大阪会場 9月18日 14:00-18:00
東京会場 9月19日 14:00-18:00

3期
大阪会場 10月24日 13:30-16:00

基調講演
「修験道と、その聖地の魅力」
田中利典氏 (金峯山(宇治))

主催：鳥取県、鳥取県教育委員会、後援：三朝町、三朝町教育委員会、日本遺産三徳山三朝温泉を守る会
協賛：大阪歴史博物館、三井記念美術館

鳥取県庁 鳥取県教育委員会文化財課 鳥取県「三朝温泉の真実」推進委員会
Tel. 0857-26-7524 Fax. 0857-26-8128 E-mail: kyouiku@kaihoukaiburei.tottori.jp URL: http://www.pref.tottori.lg.jp/bunkasai/

鳥取県文化財課

えっ
日本
こんな所に
日本遺産
!!?

日本一
癒しの
温泉
三朝温泉

日本遺産の活用とその手法

えっ
日本
こんな所に
日本遺産
!!?

本講座を受講された方に
抽選でプレゼント!!
1抽選あたり1名までとなります

三朝温泉宿泊券
三朝ミスト20%
三朝町産きぬむすめ
1kg 30%

物語を如何に「事業化」するか

顧客属性に沿った「サブ・ストーリー」づくり

命を見逃してもらった白狼がそのありかを教え、人々の病苦を救ったという三朝温泉。温泉に「六感」を癒された修験者たちは、三徳山で「六根」を清めてきた。



心身の健康を願う顧客層に遡及

白狼が教えたという株湯で足湯や飲泉を楽しむ

「三つ目の朝には病が癒える」三朝温泉を堪能

地産品を味わい、「六感」を癒す。

身を清めた翌日三徳山に登り、身だけでなく「六根」を清める。

このストーリーを体験・体感してもらえる事業構築が大切。お客様には喜んで財布の紐を緩めて頂きます

- 「ラジムリエ」を養成し、浸かってよし、飲んでよし、吸ってよし（ラドン熱気浴）の魅力を観光客に伝授
- 三朝温泉病院とタイアップし、「現代湯治」を提供
- 地産地消、旬の食材を提供する設備の整備
- 登山靴でなくても参拝登山・国宝鑑賞ができるよう、服装チェックの際にわらじを用意



(3)日本遺産は地域づくりの新たなビジョンづくり

①ストーリーの内容が、当該地域の際立った特徴・特色を示すものであるとともに、わが国の魅力を十分に伝えるものとなっていること。

***ストーリーについては、以下の観点から総合的に判断する**

- ▼興味深さ(人々が関心を持ったり惹きつけられる内容となっているか)
- ▼斬新さ(あまり知られて居なかった点や優れた魅力を打出しているか)
- ▼訴求力(専門的な知識がなくても理解しやすい内容となっているか)
- ▼希少性(他の地域ではあまり見られない稀有な点があるか)
- ▼地域性(地域特有の文化が現れているか)

***この物語が「地域ブランド」となる**

②日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像(ビジョン)と、実現に向けた具体的な方策が適切に示されていること

③ストーリーの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること。

②③は、まさに「地域活性化計画」である。これがなければ持続的な地域活性は不可能。地域活性化への取り組みが大きく停滞している地域は、「認定見直し」の議論もある。

「日本遺産」の現状(2019年5月20日現在)

日本遺産への応募状況と審査結果(平成27年度～31年度認定)

○2015年度	83件 (40都府県、238市町村)の応募	／	18件 が認定(24府県)
○2016年度	67件 (42都府県、219市町村)の応募	／	19件 が認定(20府県)
○2017年度	79件 の応募	／	17件 が認定(25道府県)
○2018年度	76件 の応募	／	13件 が認定(13道府県)
○2019年度	72件 の応募	／	16件 が認定
			計 83件

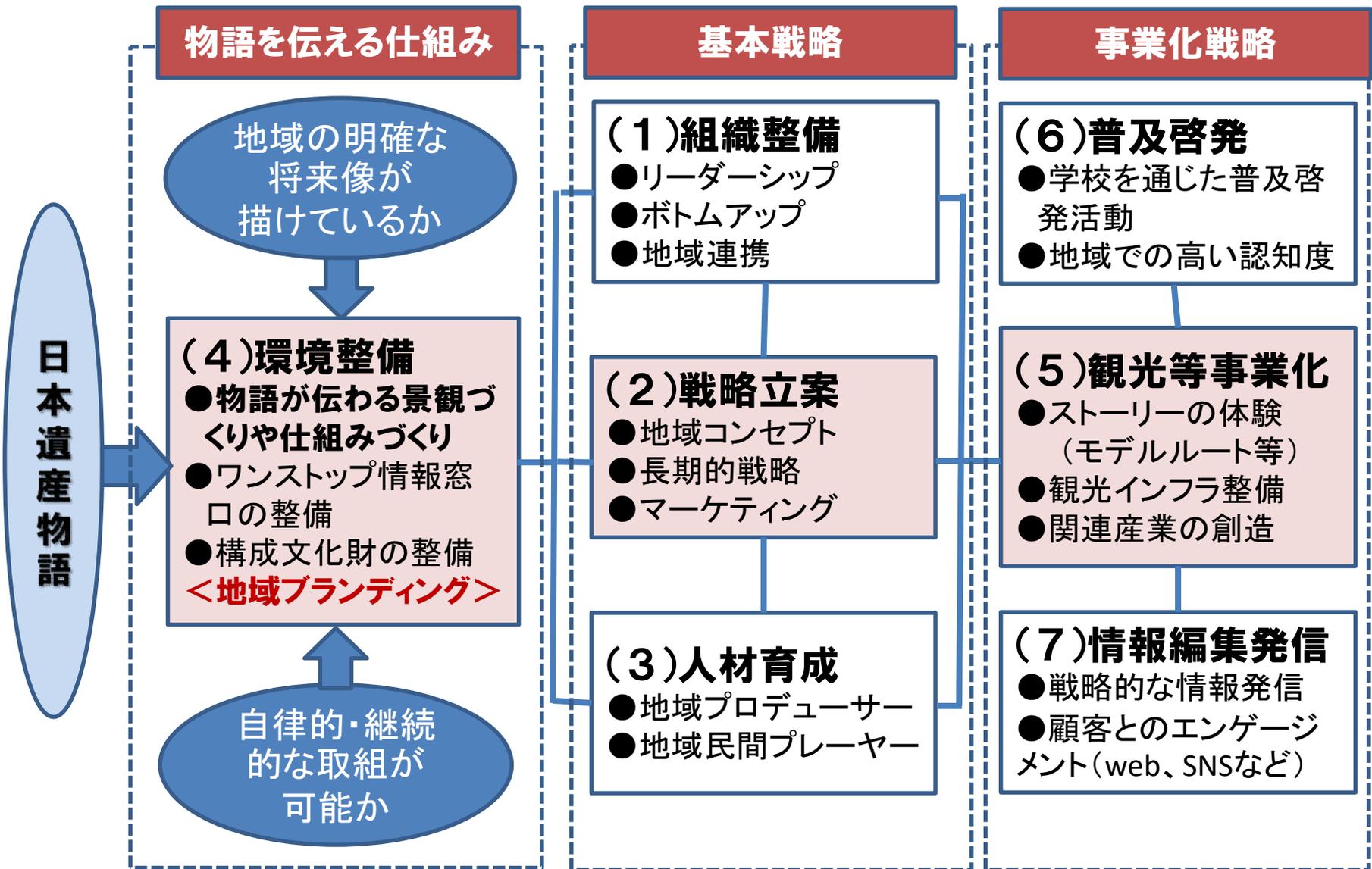
*2020年度までに100件程度認定の予定

*日本遺産に認定された物語の時代区分と主な事例

- ①旧石器 : 1 星降る中部高地の縄文世界(長野県・山梨県)
- ②縄文 : 5 なんだこれは!～火焰型土器と雪国文化(新潟県) ほか
- ③弥生 : 5 珠玉と歩む物語 小松(石川県) ほか
- ④古墳 : 9 日本国創成のとき～飛鳥を駆けた女性たち(奈良県) ほか
- ⑤奈良 : 9 絶景の宝庫・和歌の浦(和歌山県) ほか
- ⑥平安 : 11 御食国若狭と鯖街道(福井県)、鬼が仏になった里(大分県) ほか
- ⑦鎌倉 : 11 いざ、鎌倉(神奈川県)、尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市(広島県) ほか
- ⑧室町 : 17 会津の三十三観音めぐり(福島県)、四国遍路(愛媛県・高知県・徳島県・香川県) ほか
- ⑨安土 : 15 忍びの里伊賀甲賀(三重県・滋賀県)、信長公のおもてなし(岐阜県) ほか
- ⑩江戸 : 65 300年を紡ぐ丹後ちりめん回廊(京都府)、津和野今昔 百景図を歩く(島根県)、北前船寄港地・船主集落(山形県ほか15都府県)ほか
- ⑪明治 : 20 鎮守府(神奈川県・広島県・長崎県・京都府)、銀の馬車道・鉱石の道(兵庫県) 森林鉄道から日本一のゆずロード(高知県) ほか
- ⑫大正 : 1 やばけい遊覧(大分県)

注)2018年度までの認定分67物語の内訳。シリアルが入るので67にはならない

日本遺産事業の重点課題とステップ



(4)整備

- 物語を伝える仕組み、ワンストップ情報窓口の整備、構成文化財の整備の事例

「11. 飛鳥を翔けた女性たち(27年度)」(奈良県)

- 日本遺産センター、道の駅、宿泊施設を活用したワンストップの情報拠点を整備
- 飛鳥駅前に道の駅ができたことで飲食施設・レンタサイクルなども充実して、顧客の理解度・利便性が高くなる
- SNSなどによるプッシュ型の情報発信も継続できており、物語に興味を持つ新たな顧客創造に繋がっている



「27. 珠玉と歩む物語・小松(28年度)」(石川県)

- 建築家・プロデューサーなどクリエイティブパーソンとの連携で高いストーリー性を実現。新たな事業創造拠点なども整備
- 「石文化」の発信のための石切り場でのイベントや九谷焼作家のオープンファクトリー、石を使ったワークショップなどが来訪客の関心を高め、日本遺産の認知を高めている
- 建築・工芸・デザインなどクリエイティブ領域の人々による「刺さる訴求」が積極的に展開されている



八日市地方道踏の玉つくり



滝ヶ原石切り場(上)とアーチ型石橋(下)

(1)組織整備

- リーダーシップ、ボトムアップ、地域連携などの事例

「43. 丹後ちりめん(29年度)」(京都府)

- コンセプト・顧客ターゲットなど、日本遺産塾での取組を民間を含めた連絡調整会議で地道に実施
- DMOを中心とする連絡調整会議メンバーによる事業体制の構築。**ターゲット(特に欧米圏)が絞り込まれ、事業化戦略がスタートしている
- 「日本遺産塾」への参加等を通じて民間による積極的な観光事業化への取組が拡大している。



「59. 木彫刻美術館・井波(30年度)」(富山県)

- 地元住民とともに、**日本遺産の対象となった200人の木彫職人自らが、日本遺産の意義を理解し、積極的に事業に参画している。**
- 「グランドデザイン部門」「企画情報部門」「グッズ・メニュー開発部門」など、地域プレーヤー、地域プロデューサーを含めたワーキンググループが効果的に実行されている。



(2)戦略立案

- 地域コンセプト、長期的戦略、マーケティング調査

「5. 御食国若狭と鯖街道(27年度)」(福井県)

- 着地型商品としての「御食国アカデミー」(*)造成による京都との戦略的な連携
 - 養殖鯖の開発(ベンチャー企業)や飲食店との連携
 - 養殖鯖のブランド、IoT技術を活用した養殖事業と全国展開のフランチャイズ店のアンテナショップ化など
 - DMO法人は「御食国アカデミー」と連携、滞在型観光促進のための古民家再生の宿泊所をオープン
- *食の情報やコンテンツを発信するとともに、さまざまな食文化体験や学びの場を着地型観光商品として集約発信する事業
- *昨年度末から、文化財保存活用地域計画の策定に着手



「32. 鯨とともに生きる(28年度)」(和歌山県)

- 圏域全体の多様な既存キャンペーン(「水の国和歌山キャンペーン」「サイクリング王国和歌山」「和歌山歴史物語」「世界遺産」など)との連動した体験・モデルルート設計、プレイヤー育成の仕組みなど、長期戦略のもとに事業を着実に推進している。
- インスタグラマーのセレクトと情報発信、フォトライターを育成する仕組みなど、顧客に響く(届く)事業も戦略的に展開されている

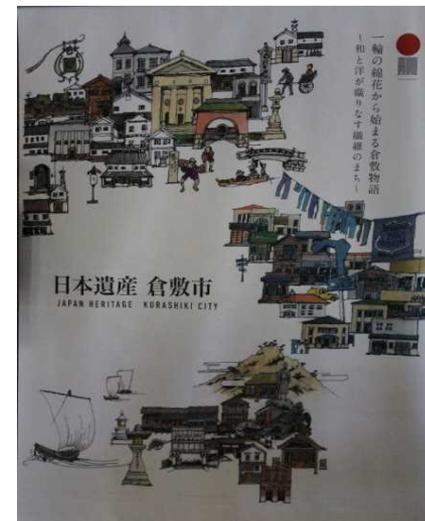


(5)観光事業化

- ストーリーの体験(モデルルート等)、観光インフラ整備など

「49. 一輪の綿花から始まる倉敷物語(29年度)」(岡山県)

- ストーリーを絡めた各種民間イベントや催しを企画、地元市民らの認知度も高まっている
- 観光では定番の美観地区を中心に、デニムエリアの児島、北前船寄港地の玉島などを、それぞれの地域の強みをネットワークした観光事業化が進んでいる(地域内二次交通の整備も大きな課題)
- クラウドファンディングによる特徴的な特産品開発も進んでいる



「61. 星降る中部高地の縄文世界(30年度)」 (長野県・山梨県)

- 認定1年目ではあるが、縄文トレイルなど多くの体験プログラムやイベントの確立が進んでいる
- テーマ性の強い事業だが、観光事業者との連携、縄文に興味のあるターゲット層の絞り込みなど、観光事業化に向けた取り組みを展開
テーマ客は、良質のリピーターになりやすい(囲い込み)



(6)普及啓発

- 学校等を通じた普及活動、地域での高い認知度

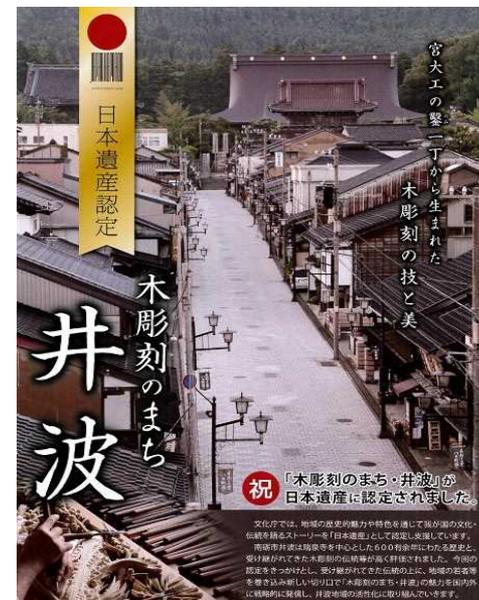
「46. 和歌の浦(29年度)」(和歌山県)

- 県や観光連盟との連携により継続的な情報発信が行われているが、特に**地元生徒が町の魅力を取材して伝える取組み**が素晴らしい(学校教育との連携)
- 宿やアクティビティ経営者、インスタ部、和カメラ、地元企業などを巻き込める事業者に向けた積極的な働きかけを行い、地域全体での取組みを展開しようとしている



「59. 木彫刻美術館・井波(30年度)」(富山県)

- 文化財活用、**小中学生へのワークショップ**、クリエイティブチームの結成などの積極的な活動が展開されており、地元の人々の日本遺産への強い意欲を感じる
- 学校教育との連携が、地域の伝統工芸に対する理解促進につながり、将来の担い手確保にもつながることが期待される



(7)情報編集・発信

- 戦略的な情報発信、顧客とのエンゲージメント(web、SNSなど)

「7. 祈る皇女斎王のみやこ(27年度)」(三重県)

- SNS発信が充実。PR動画などの発信などとも連動した戦略的な情報発信ができています
- 日本遺産センター周辺の施設活用、地元若手プレイヤーによるワーキンググループなどが活発に活動し、地元の認知度も向上している
- すでに4年目(文化庁補助事業)を経過したが、**地方創生交付金事業等で2019年1月に明和町によるDMO(明和観光商社)を設立**。日本遺産活用推進協議会との連携体制を模索



日本遺産の活用とその手法



3. 日本遺産の可能性をどう広げるか ～各地の事例からみる日本遺産活用手法～



- 各地の日本遺産には、それぞれに大きな個性がある。観光の受入体制ができていない地域でも、日本遺産ブランドを活用した、新たな地域産業の創出につなげることも可能
- 大切なことは、自らの日本遺産の特長と魅力、顧客視点にたった「価値」を見抜き、これらに沿った事業手法を確立することである

(1)日本遺産は地域ブランディングである

地域ブランドとしての日本遺産とその活用



日本遺産は、地域の文化資源とその物語化を通じた地域ブランディングの手法でもある

P19「日本遺産事業の重点課題とステップ」を参照

(1)地域ブランド戦略(物語を伝える仕組み)

①快適な地域景観と都市づくり

日本遺産物語を体感できる、「空気感」のある地域づくり

②日本遺産センター等情報窓口

はじめて訪れた人にもわかりやすい情報提供できるワンストップ拠点づくり等

(2)ブランド確立のための基本・長期戦略

③長期的な地域ブランディング戦略

地域づくりのマスタープランや観光ビジョン等への位置づけ。市民・事業者を巻き込んだ戦略立案と実行

(3)ブランドに基づく事業化

④地域ブランド製品づくり

日本遺産物語に因むブランド製品づくり

⑤新たな産業創出

日本遺産に因む地域の新たな産業創出

⑥観光事業の革新と創出

日本遺産物語を満喫できる旅プログラムの創出

⑥海外を含む戦略的プロモーション

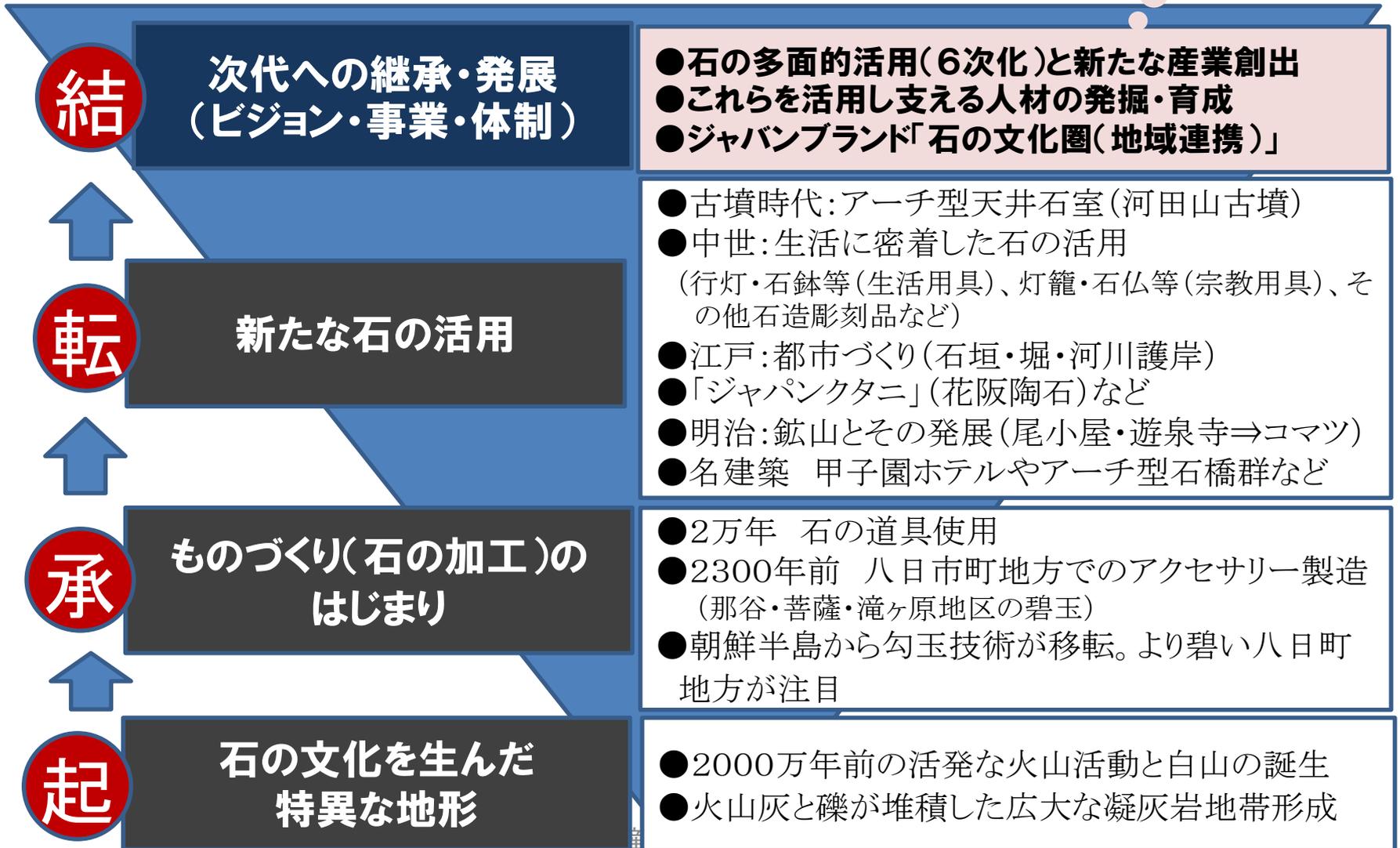
物語の醍醐味を「伝える」、効果的なプロモーション

- 事業化を支えるプレイヤー発掘・育成
- 地域住民・児童等の歴委・文化学習(地域の誇り・愛着の育成)

(2)地域ブランド産品と産業創造

ブランディング
と新たな事業
創造

事例1 「珠玉と歩む物語(石川県小松市)」(2016年認定)



2019年5月24日にオープンした「**九谷セラミック・ラボラトリー(CERABO KUTANI)**」もともと九谷陶石の加工場（製土工場）であったが、リニューアル後は、九谷焼の後継者育成、若手作家の創作工房などを加え、新たな産業創造・産業観光の拠点施設として蘇った。日本遺産認定を契機とした事業創造である。設計は、建築家隈研吾氏。



- 2019年8月8日、**CERABO KUTANI**で、本年度4回にわたる「**産業観光ワークショップ**」がスタート
- 地域(小松市・能美市)の多様な事業者が集い、日本遺産物語をモチーフにした新たな産業創造とインバウンドツーリズムのプログラム開発などの取り組みを開始した。
- テーマは珠玉の文化から最先端産業・技術、織物、九谷焼、酒・食に至るまで実に幅広い!!



事例2 日本遺産「地下迷宮の秘密を探る旅」(栃木県宇都宮市 2018年認定)

地域資源には多様な切り口(編集視点)がある。1500万年前から続く固有景観と砕石産業による新たな景観、大谷石を使った都市や農村の景観。これらの資源活用には無限の可能性が広がる



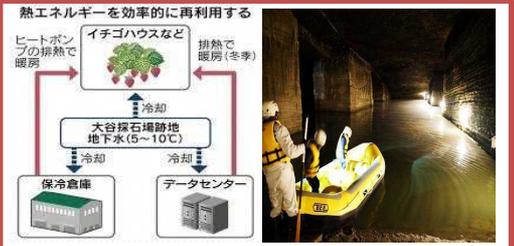
砕石産業は坑道やこれらを運んだ人車・鉄道等の輸送手段、工夫や道具類、山の神などのシステムで成立していた

② 砕石産業の遺産と地域の記憶



① 採掘跡・都市空間の景観を活かす

1500万年前の海底火山噴火でできた凝灰岩や洞穴。砕石場地下迷宮、都市空間の魅力



地下空洞・地底湖の活用、地下冷熱の活用、都市内建築物の活用など地域未来と産業の創出

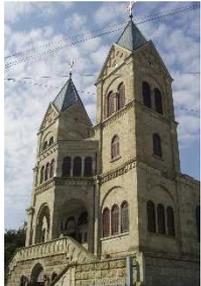
大谷石
を軸とする多様な文化

④ 地域の固有資源を活かした新たな産業創出



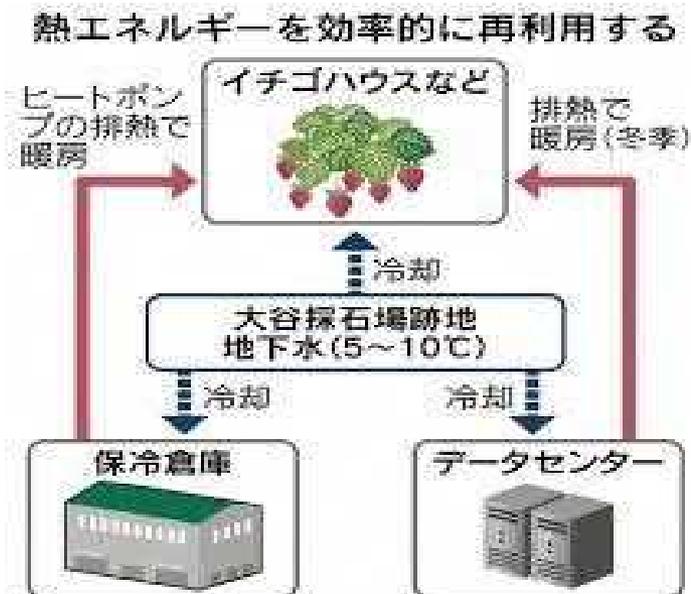
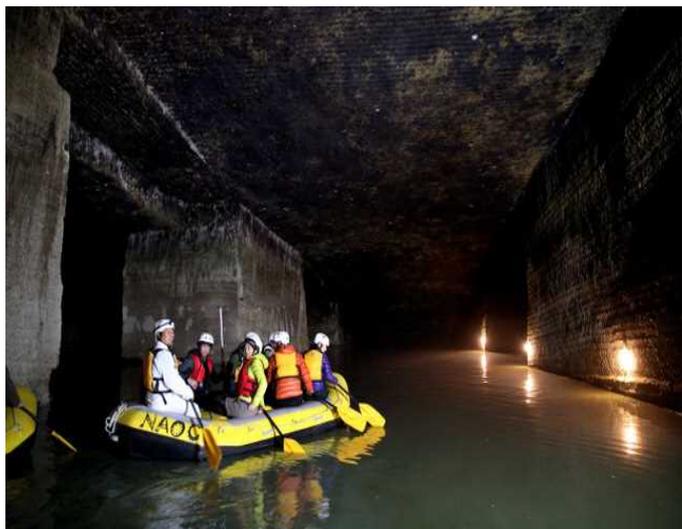
③ 都市・暮らしの文化を伝える

大谷石を活用した、都市や農村の建築物とその景観・暮らし文化の活用

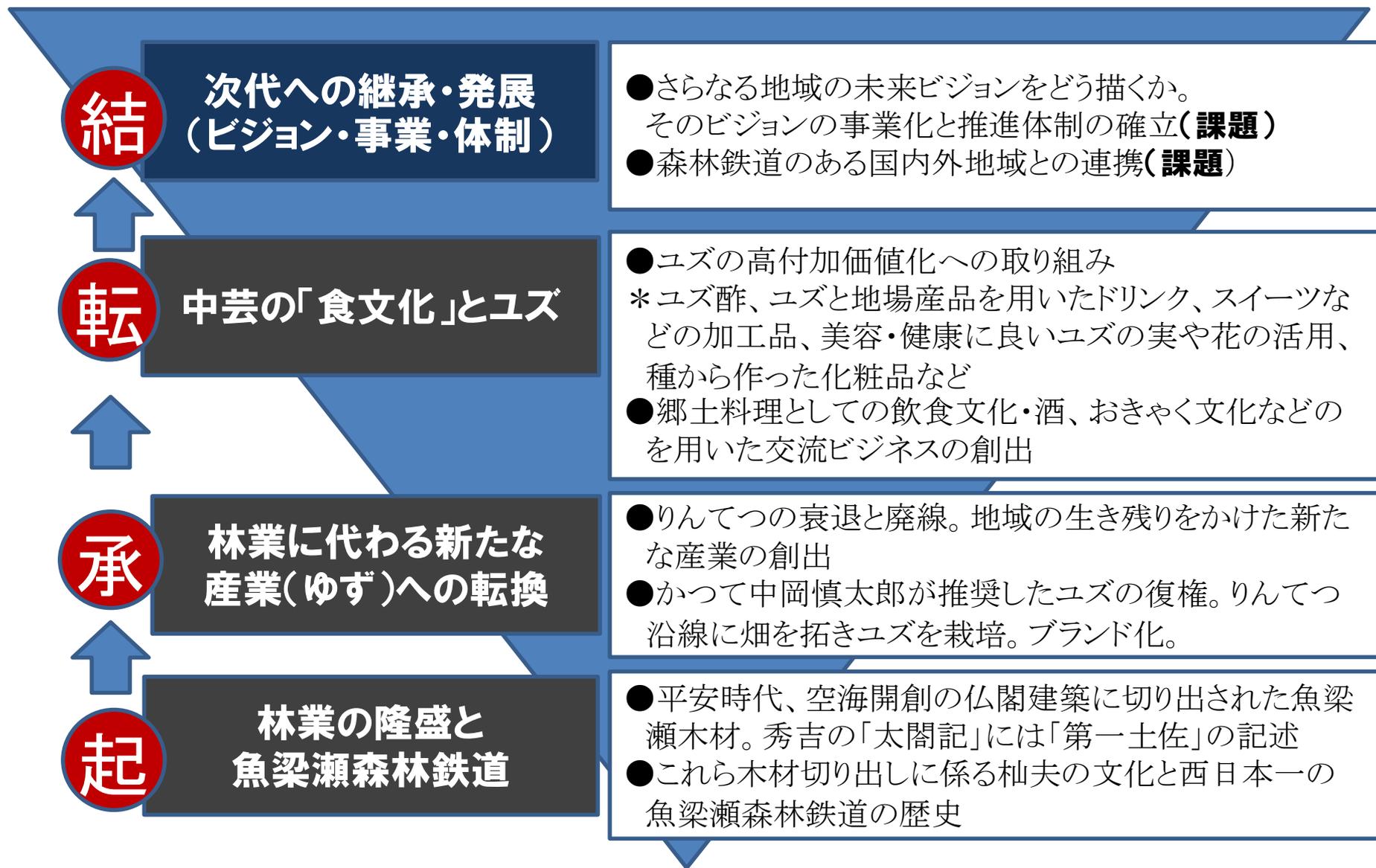


地域の固有資源を活かした新たな産業創出

地下空洞や地底湖の観光活用、地下冷熱による苺栽培など農業の6次産業化、物流倉庫などの冷熱利用など、世界のどこにもないユニークな産業活用・創造が期待される



事例3 「りんてつの里」から「ユズの町」へ(高知県中芸地域 2017年認定)



大切なことは、日本遺産の「物語」が体感できる景観が整備され、楽しめるプログラムがあるかどうかです

- 森林鉄道や柚子ロードの「物語」は、どこに行けば体感できるか。楽しめるのか。
- 「柚子ロードセンター(日本遺産センター)」で総合的な情報をゲット、公式マップやガイドとともに、いざ現地へ!!。サイクルツアーやガイドツーリズムなどのプログラム開発も



地元5町村(協議会)のWS。
民間事業者からのアイデアを形に!!

世界に2つしかない「モネの庭」も強みに

フランス(マルモッタン)以外で「モネの庭」と呼べるのは日本のココだけ。本場でも花開かなかった青い睡蓮が、その後、フランス文化勲章を受章した庭師(川上裕さん)によって、太平洋に面した土佐の海沿いで咲きました



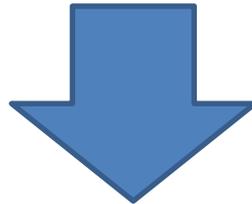
フランスとの強い絆、地中海・欧州エリアで人気の高い柚子(柑橘類)を武器に、フランスに向けたインバウンド戦略にも力を入れる

日本遺産ストーリーのもう一つの意味 ～大切なのは地域「愛」アイデンティティー～

①地域アイデンティティー(誇り)の形成

- 地域のオリジナルストーリーは顧客に示す前に、地域自体が共通のアイデンティティーや自らの方向性として共有するものである。
- 換言すれば、他所の人々に語れる・語りたい共通の地域物語をもっているかどうか問われる。

(「市民プライド」「地域ブランド」=「みんなの日本遺産」)



自地域の誇りとして
何を伝えたいのか

②魅力的な「滞在スタイル・ストーリー」の提供

- 地域の人々が自らの歴史を知り、誇り(伝えたいもの)がなければ外の人には伝わらない。つまり観光にはならない。
- マーケティング視点を取り入れ、誰にどのような物語(テーマストーリー)を語り、共感・感動を得ることができるかが問われる

(共感のストーリー)

中芸みんなの日本遺産 記念イベント

高知県 奈半利町 伊野町 安田町 北川村 馬路村

ゆずロードを祝おう

もち投げあり!

学べる! 展示ブース

遊ぼう! アトラクション

作ろう! 体験ブース

おいしい! 飲食ブース

日本遺産認定記念シンポジウム
中芸みんなの日本遺産
森林鉄道から日本一のゆずロードへ
—ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化—

2017年10月1日(日) 参加無料

[場所] 田野町ふれあいセンター [時間] 10:00 - 16:00
高知県安芸郡田野町1456-42

内容 ●認定祝賀セレモニー
●基調講演「東京から見た地域の魅力/合掌智宏氏(東京機能代表取締役社長)」
●パネルディスカッションⅠ - 「日本遺産未来計画(案)」発表 -
●パネルディスカッションⅡ - 討議 -

主催 中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会

日本遺産認定記念シンポジウム
「日本遺産未来計画(案)」

日時:平成29年10月1日(日)
場所:田野町ふれあいセンター

ゆず農家の皆さんの営みそのものが柚子ロードや地域景観を育てている。

だから「みんなの日本遺産」なのである



(2)基本戦略のための仕組みづくり

**地域としての中長期戦略、組織整備、人材育成などの基本戦略。
ここがブレると持続的な活動が停滞する**

①行政による強い誘導・支援

この地域は将来どんな地域でありたいか(地域の将来ビジョン)、日本遺産の構成資産や観光資源・景観の長期的視点にたった保全措置、観光交流のためのインフラの整備等、地域の基本戦略については行政or日本遺産推進協議会などの明確な指針が不可欠

②各種経済団体・民間企業等による産業創出のプラットフォームづくり

物語に沿った事業の構想と実現化とともに、これらを総合的にマネジメントできるプラットフォーム(DMO・DMCなど)の創設

③物語を体感する「観光」プログラム・観光事業の創出

①②を前提として、日本遺産の物語が体感できる、新たなテーマ型観光プログラムと関連産業を創出する。近隣地域や国との密な連携のもとに、広域事業連携も可能である。

④地域を担う「人材」の発掘・育成

全ての事業の根幹には、「人材」がある。観光の付加価値はまさにヒトがつくる。これら人材育成のための仕組みづくり、特に事業の創出やマネジメントができる人材、プレイヤーの育成が不可欠

例)担う「ヒト」を育てる日本遺産地域「くれ観光未来塾」の試み

- 呉市は、日本遺産認定(鎮守府4都市)を機に、民間事業者の起業塾を構想
- これら民間塾の開講に先立ち、行政各課に呼びかけ、17課25人(U-40)の塾生による「くれ観光未来塾」(第1期)を開講(2018年5月から「民間版」の塾(第2期)を開始)。
- 塾では、これからの民間事業起業を促し支援するための新政策の検討を進めてきた。即効性のある優れた事業提案と支援策は年度新政策に反映



■事業計画とこれらを支える政策支援策の提案フロー

I. 呉にとって優先順位の高い事業構想・計画を作成する

事業構想(「**事業計画プランニングシート**」の作成)

- ①今の呉にとって優先度の高い事業は何でしょうか(日本遺産活用なども含めて)
- ②事業計画の絞込み・精査
- ③事業提案として完成

II. これらの事業を実現するための手段や課題を整理する

Iの事業化を図るための基本課題を明確にしてください

- (例)
- | | |
|-----------|-----------------------------------|
| ①事業体制 | : 事業主体は誰か。その法人格などは?? |
| ②事業の実施エリア | : どんな場所・エリアで実施する事業か?? |
| ③資金調達 | : どの程度の事業規模でしょう。そのための資金調達をどうするか?? |
| ④事業収支 | : 事業収支の見通しや運転資金はどうか?? |
| ⑤人材確保 | : 事業実施のための専門人材の確保や育成をどうするか?? など |

III. 課題を解決するための政策的支援・誘導などの方法を提案する

<これが新政策に繋がる!!>

- ①IIの手段・課題を解決する考え方や具体的方法などについて提案してください。
- ②その他、実際の事業には、法制度面からの制約もありますが、これらをどうクリアするか
<用途規制や公有地使用など>(都市計画法、河川法、港湾法、道路関連法など)
<建築関連法など>(建築基準法や消防法など)
<事業許可関連>(食品衛生法や風俗営業法など) などなど
- ③①②を解決するための政策的誘導などの手法について取りまとめてください(=**新政策**)

(3) 観光等事業化戦略のための仕組みづくり

ストーリーが体感できるモデルルートや観光の基本インフラ(二次交通や宿泊など)の整備、地域住民の「誇り」の醸成、国内外への戦略的情報発信など、実効性の高い文化資源の活用戦略策定が不可欠

① 地域文化資源を総合的に活用する地域計画の策定と事業化

地域文化資源は、これからの地域活性化の切り札。その文化資源を総合的に活用する歴史文化基本構想や文化財保存活用地域計画の策定により、息の長い地域活性化事業を

② 観光戦略と事業を一元的にマネジメントできる組織体の創設

* 単なるツーリズムプログラムではなく、持続的な観光を可能とするマネジメント組織の創設

③ 魅力的な「サブストーリー」に沿ったツーリズムプログラム開発

* 顧客属性とそれぞれの価値に応える資源を活かしたサブストーリーの創出

④ 地域情報を集約したインフォメーション・ガイドセンターの設置

* 「日本遺産センター」など、エリアの構成資産や魅力を一目で理解できる拠点の整備

⑤ ガイド・インタープリターの研修と儲かる仕組みづくり

* 地域の価値を伝えるガイド・インタープリターの要請。その際、従来の「ボランティア」ガイドの発想ではなく、「ガイドツーリズム」「サイクルツーリズム」(食・体験等)など「高付加価値型」のガイドの仕組みづくりを

事例4 日本遺産「御食国若狭と鯖街道」(福井県小浜市)

起

御食国若狭の原点

- 古代から朝廷の食を支えた「御食国」
「若狭の美物(うましもの)」を1500年にわたり都に運び続けた「鯖街道」
- ★古墳時代は宮中の食膳を司る膳臣が治めた国。
- ★古代の首長墳墓群から近世場町までの濃密な文化財群
- ★最大の中継基地「熊川宿」。街道沿いに残る六斎念仏や祇園祭りなど京都伝来の民俗行事

1500年の原風景を活かした地域づくり

結

- 御食国の時代から1500年、朝廷・貴族を結んだ交流の歴史から、街道往来の庶民生活までの歴史と往来文化遺産群を体感できる稀有な地域を未来に繋ぐ
- ★単に鯖を運んだのではなく文化交流の道
- ★都を起源とする祭り・芸能などの民俗文化財
- 1500年の交流の歴史と原風景を未来に繋ぐ地域づくり(課題)

- 「海の道」と「陸の道」の結節点小浜湊
海外・日本海各地域に開けた「海の道」、都とつながる「陸の道」の結節点
- ★南蛮文化の玄関口。室町初期には象や孔雀などの珍獣が南蛮船で上陸。都に運ばれた
- ★中世には禁裏御料所(皇室所有地)
- ★藩主京極高次による「鯖街道」の整備。南蛮渡来の若狭塗、祇園祭由来の小浜放生祭など

承

鯖街道の起点 ～湊町小浜のにぎわい～

- 京と結ぶ最短ルート 針畑越えの歴史的景観
古代・若狭国国府の置かれた遠敷(おにゅう)の里から針畑峠・朽木を經由して鞍馬を結ぶ街道
- ★京は遠ても十八里
- ★海彦・山彦の伝説
- ★奈良二月堂のお水送り神事
遠敷の神様が奈良二月堂の創建に際して若狭の水を送ったという伝説神事

最古の鯖街道 針畑越の歴史的景観

転

小浜市文化財保存活用地域計画と日本遺産

基本理念

自然に囲まれた
安定社会の形成

御食国若狭の継承 そして発展

海に面して開かれた
交流の創出

将来像
(目標)

次世代への
文化財の継承

歴史的景観の保全と
ブランド価値の向上

文化財と共生する
まち・暮らしの実現

○文化財群・文化財の市内外での認知度・関心の向上、○文化財保存。活用手法の高度化、
○協働の拡がり、○資金調達・経済循環の高度化

関連
文化財群

人と自然のため
まめ共生

蒼島等

- 小浜湾が育む景観保存活用地域
- 蒼島暖地性植物群落・若狭蘇洞門を核とした区的

御食国若狭の
成立

史跡岡津製塩
遺跡・北川流域

- 御食国若狭の製塩遺跡群保存活用区域

神仏習合の
社寺と暮らし

世界遺産候補
地(お水送り)等

- 神仏習合の社寺と暮らしの保存活用区域

京に繋がる
鯖街道

鯖街道文化的景
観(小浜旧市街)

- 針畑峠～最古の鯖街道の歴史的景観～保存活用区域
- 鯖街道の起点～湊町・小浜の賑わい～保存活用区域

海に開かれた
小浜城下町

小浜城下町
(小浜西組)

- 鯖街道の起点
- 伝統的町並保存活用区域
- 城下町の歴史と文化保存活用地域
- 祭と伝統産業保存区域
- 近世資料群(酒井家文庫燈)

日本遺産を活かす交流拠点づくり (日本遺産満喫プランニング拠点)

●「海の駅」 食体験とマリンアクティビティ

御食国若狭おばま食文化館、卸売市場・遊覧船発着場、若狭おばま魚センター、七輪焼き広場、若狭フィッシャーメンズ・ワーフ、ブルーパーク阿納など



●「まちの駅」 伝統的町並み散策

明治時代の芝居小屋「旭座」、鯖街道の起点いづみ町・市場町、鯖街道資料館、小浜西組伝統的建造物群保存地区、旧料亭酔月、空印寺など



●「道の駅」 『海のある奈良』神社仏閣へのいざない

里海・里山のアクティビティー拠点、国宝明通寺、若狭神宮寺、萬徳寺、妙楽寺、羽賀寺、若狭姫神社など



●「山の駅」 日本遺産鯖街道トレッキング

いにしへの宿場景観「熊川宿」、日本遺産針畑峠、上根来集落、若狭神宮寺、鶉の瀬など



おわりに 文化遺産の活用は地域の総合力が試される

人の移動をサポート (交通・情報等)

- 鉄道等地域内二次交通
- バス・タクシー・レンタカー
- 自転車等
- Naviシステム

「観光」の 基本要素

集客・送客サポート

(旅行事業者等(地域内外))

- 地域内旅行事業者(2・3種)
- 大手旅行事業者等
- 情報とその配信の仕組づくり

集客交流(観光)や事業創出のためのプラットフォームづくり

地域の受け皿整備等

- 日本遺産など地域ストーリーと観光プログラムの整備
- 産業創造など、地域ビジネス創出
- ホテル・レストラン等の充実
- ブランド産品・ショップの充実
- MAP、看板・サイン類の整備
- 国内外へのプロモーション
- ガイド・インタープリターの育成

など

- 地域の将来ビジョン
 - 観光資源や景観の保全
 - 交流インフラの整備等
- 行政による誘導・支援**

- 地域固有の食ブランド
 - 中心市街地の賑わい創出
 - ものづくり工房・工芸品等
- 経済団体・事業者等
(商工会・農協・漁協等)**